

病床変更について

急性期一般病床を地域包括ケア病棟に変更

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院
企画渉外課 木村

急性期病床（18床）を地域包括ケア病棟に変更

病床変更前

急性期一般病床	18床
地域包括ケア病床	32床
回復期リハビリテーション病棟	60床
医療療養病棟	42床
緩和ケア病棟	16床
合計	168床

病床変更後

地域包括ケア病棟	50床
回復期リハビリテーション病棟	60床
医療療養病棟	42床
緩和ケア病棟	16床
合計	168床



背景と経緯について

- ・ 外来からの緊急患者の減少、レスパイト入院等の増加。
- ・ 急性期医療の患者より、回復期、地域包括ケアの対象患者が増加。



一般病棟医療看護必要度の対象患者の減少

**急性期一般病床維持が困難
となった。**

当院が、地域より求められているのは、在宅復帰に向けた支援では？



11月より地域包括ケア病棟として運用を開始する。

図表 3—2—2—1 医療機能4区分

病床変更前

機能区分	医療機能の内容
高度急性期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能。 <p>※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例</p> <p>救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟</p>
急性期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL*の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション機能)
慢性期	<ul style="list-style-type: none"> 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者または難病患者等を入院させる機能

急性期一般病床 18床
地域包括ケア病床 32床

回復期リハビリテーション病棟 60床 緩和ケア病棟 18床

医療療養病棟 42床

図表 3—2—2—1 医療機能4区分

病床変更後

機能区分	医療機能の内容
高度急性期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能。 <p>※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例</p> <p>救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟</p>
急性期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期	<ul style="list-style-type: none"> 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL*の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション機能) <p>地域包括ケア病棟 50床 回復期リハビリテーション病棟 60床 緩和ケア病棟 18床</p>
慢性期	<ul style="list-style-type: none"> 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者または難病患者等を入院させる機能 <p>医療療養病棟 42床</p>

総括

- 急性期病床の維持が困難となった。
- 東近江医療圏における当院の現状と果たすべき役割を議論した。
- 在宅医療や地域包括ケア病床の充実を図ることが当院の果たす役割であるとの結論に至り、病床変更を行った。

以上、ご報告となります。当院は今後も圏域に必要とされる病院として最善を尽くします。

ご清聴ありがとうございました。